

数学科(数学A) 学習指導案

単元	確率	教科書	高等学校 数学A (数研出版)
指導目標	1 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めさせる。 2 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察させる。	指導計画	1 事象と確率・・・1時間 2 確率の基本性質・・・2時間 3 独立な試行と確率・・・2時間 4 条件付き確率・・・2時間 5 課題探究・・・3時間 (本時はその3時間目)
本	主題	仮説検定の考え方	
	本時の目標	1 確率の学習内容を活用して「仮説検定の考え方」を理解し、仮説の妥当性について判断させる。 2 仮説検定の特徴を踏まえて、仮説検定の活用場面について考察させる。	
時	課題	反復試行の確率を復習しておく	
	学習活動	時間	留意事項など(ALの視点を含む)
の	導入	7	・実験内容について簡単な説明の後に動画を見せ、結果の例を提示する。 ・動画 https://www.youtube.com/watch?v=JWzRFLSucQQ
	展開	10	・各生徒が(1)と(2)のどちらかの活動を行い、相互に共有することで比較・検討を行う。 ・回数、セット数を操作してシミュレーションをさせる。正規分布に近い形を見せる。 ・複雑な計算は、コンピュータを使って近似値を求めさせる。
指	1 確率で学んだ内容を活用し、仮説の妥当性について判断する。 (1) コインを用いたシミュレーション (2) 反復試行の確率を用いた数値化	5	・「好む」「好まない」という断定的な言い方にならないよう注意させる。
	2 検定によって得られた結果を表現する。	5	・方法の中で、仮定していることは何か確認させる。
導	3 仮説検定の方法を振り返る。	【評価基準】 A 「仮説検定の考え方」を理解し、仮説の妥当性について正しく表現できる。 B 「仮説検定の考え方」を理解することができる。 C 「仮説検定の考え方」の理解に不十分な点がある。 【評価方法】 ○行動観察 ・教科書デジタルコンテンツ ・Microsoft Math Solver	
	4 仮説検定の考え方の活用場面を考察する。	15	・日常の場面や、課題研究の場面など、様々な視点から考えさせる。
過	1 本時のまとめをする。	8	・仮説検定の考え方は、経済学や心理学に应用されていることを紹介する。
	4 仮説検定の考え方の活用場面を考察する。	【評価基準】 A 仮説検定の活用場面を、その特徴を踏まえて説明できる。 B 仮説検定の活用場面を説明できる。 C 仮説検定の活用場面の説明に不十分な点がある。 【評価方法】 ○アンケート回答内容 ・Microsoft Forms	
程	1 本時のまとめをする。	8	・仮説検定の考え方は、経済学や心理学に应用されていることを紹介する。
理	1 本時のまとめをする。	8	・仮説検定の考え方は、経済学や心理学に应用されていることを紹介する。
備	理数科・普通科 生徒数 40名		

「30人中21人がお助けマンを選んだ」という実験結果から、「乳児はお助けマンを好む」という仮説の妥当性を判断したいとき、どうすれば判断できるか。

仮説検定の考え方は、どのような場面で活用できるか。